



千寿常東小だより

令和5年12月1日
足立区立千寿常東小学校
学校通信 12月号

「いじめをしない、させない、ゆるさない」

副校長 松村 裕子

11月は「ふれあい月間」でした。本校でも学校を安心して生活できる場とするために、アンケートを実施しました。また全校朝会の校長・副校長講話では、「美しい言葉、傷つける言葉」「いじめ」を取り上げ、Home & Schoolでも「相手を尊重した言葉遣いや行いができる子どもを育てるために」を配信しました。

子供たちは集団の中で生活しています。人が集まれば些細なことで感情の衝突や気持ちのすれ違いが起きます。トラブルやもめごとは、どの教室でも起きます。学校では、それらが起こった時にいち早く事実を聞き取ったり、相談したり、いけないことはいけないと指導したりしながら解決に向けて取り組んでいます。

タブレット、スマートフォンを器用に扱う子供たちには、SNSに関連したトラブルも起こっています。安全に正しく使うことができればとても便利なもの。しかし事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったり、誹謗中傷やいじめの温床になってしまったりするなど残念な事実もあります。

また、子供たちが被害を受けるだけでなく、加害者になってしまうケースも生じています。実社会でやってはいけないことは、インターネット上でもやってはいけません。子供の変化に早く気付けるように、また子供同士の関わりが良くない方向へいかないように、学校・家庭で連携し、考えていくことが重要だと考えています。

千寿常東小でも、乱暴な言葉遣いをしたり、相手が不快に感じることをしつこく言ったりやったりする言動も見られます。子供たちは起こってしまったトラブルを解決していく経験を通して、社会性や相手に共感する心や、自分の行動を振り返ることを学んでいきます。しかし自分が悪いと思っても、なかなか謝れない、自分の気持ちを相手にうまく伝えられない子供もいます。子供たちがなぜそうした言動を起こしてしまうのか、その背景を理解することが大切です。学校はそれぞれ異なる個性や考え方をもった子供たちが集まり、一緒に学習したり生活したりする中で、人と人との関わりを学び社会性を育てる場所です。しかし、人と人との関わり方や社会性は、学校だけで身に付くものではありません。家庭や地域の力も不可欠です。保護者や地域の皆様もぜひ、子供のマナーや、相手の気持ちを考えることなどについて「いじめはないか」「いじめ的なことをしていないか」など、話し合ってくださいようお願いいたします。

